

決算審査特別委員会での審査状況

平成20年度決算を認定

市の財政状況 景気と同様に光は見えず

平成20年度一般会計、各特別会計及び公営企業会計決算を審査する特別委員会（議員全員で構成）は、9月17日、18日の2日間開かれ各決算を審査し、市当局と議員との活発な質疑・応答の結果、いずれも認定すべきものと決まりました。

委員会で議論された主な内容は次のとおり。

一般会計から

質疑 コンビニ収納業務にかかる経費の内訳、今後の展望はどのようになっているか。

答弁 収納集計に必要な通信料と収納代行業者委託料で約百三十万円支出している。住民税・固定資産税・国保税・軽自動車税以外の市税についてはコンビニ収納の利用があまり見込めないことから、取り扱い税目を増やす予定はない。利便性の高いコンビニ収納を更に周知していく予定である。

質疑 デマンド交通導入の進捗状況は。

答弁 デマンド交通、いわゆる乗り合いタクシーの導入については、赤字運行の続いている市内三路線及び冬期の十和田湖線を検討している。住民説明会を実施し、一年間の試験運行を予定している。現在はその事前準備を進めている状況である。

質疑 焼山福祉センター廃止による影響は。

答弁 代替として市民の家の利用を推進している。市民の家利用状況は前年比約二倍となり、大変盛況となっている。混雑や備品不足の指摘も受けているが、アンケートをとるなどして、改善する方向で検討している。

質疑 ごみ収集運搬業者の搬出作業に対する苦情を耳にするが、どのように指導を行っているか。

答弁 ゴミステーションから収集運搬業者が搬出する際の後片付け等については、随時十和田地域広域事務組合に申し入れしているが、改善されるよう、引き続き申し入れを行っていく。

質疑 十和田市雇用創造推進協議会の活動状況は。

答弁 平成十九年九月から厚生労働省の委託事業として、市全体の雇用状況を好転させることを目的に実施している。平成二十年度事業実績として、観光リーダー育成研修やITレベルアップ研修など二十九事業を実施、研修受講者のうち百三十二人が雇用に結びついている。



雇用創造推進協議会の研修風景

質疑 秋まつり山車製作補助事業の経緯と今後の継続交付について。

答弁 県の補助金も利用しながら、平成十八年度から三カ年の期限つきで実施してきた。時代絵巻を中心とした自作の山車製作技術の向上、地域コミュニティの形成、秋祭り全体の活性化を目的としている。町内会や観光協会からの要望を受け、平成二十一年度も補助を行った。四年間の実施成果として、山車製作技術の向上、地域のまとまりを感じる等の意見も聞いている。来年度の補助については、観光予算全体の枠の中で補助が継続できるように鋭意工夫、努力していきたい。

質疑 休屋地区再整備基本計画の概要について。

答弁 観光拠点施設を休屋につくりたいということ、地元住民を中心にまちづくり協議会を立ち上げていく。建設地は確定していないが、施設内容や人材育成も含めさまざまな形で議論を行っている。

国民健康保険事業 特別会計から

質疑 従来の健康診査から特定健康診査で変更になった点は。

答弁 平成二十年四月から四十歳以上六十五歳未満の方を対象に実施している。心電図・血液中の血糖検査等、医師の判断に基づき行うようになったことが大きな変更点である。生活習慣病、いわゆる糖尿病や心臓病、高血圧症になる可能性があること等を目的にしている。健康診査だと認識している。

病院事業会計から

質疑 市立中央病院の入院者特別室の利用状況及び利用料金の見直しについて。

答弁 入院者特別室は五床あるが、常時利用されているのは二床程度である。将来的に人間ドック利用者の利用も考えている。利用料金については試行的に下げているが、いずれ本来の料金に戻したいと考えている。

